

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 13 日現在

機関番号：62501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370755

研究課題名(和文) 東アジア古代・中世における境界意識と仏教信仰の研究

研究課題名(英文) Boundary consciousness and the Buddhism in ancient and medieval East Asia

研究代表者

三上 喜孝 (MIKAMI, Yoshitaka)

国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授

研究者番号：10331290

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本と韓国の仏教関係資料の検討を通して、7世紀から14世紀に至る時期における、東アジア諸地域の境界意識の変遷と、仏教をはじめとする信仰との関わりについて考察した。古代・中世の東アジア世界では、さまざまな地域にさまざまな「国家」が興亡するが、そこでは、現実の政治課題や外交問題と深く関わって「境界」が意識され、境界の外の世界を意識したさまざまな信仰が行われていた。とくに、日本、朝鮮半島、中国の各境界地域には、同時期に四天王信仰や毘沙門天信仰が広まっており、それが境界意識と分かちがたく結びついていることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This research was considered about a change in boundary consciousness in East Asia through an analysis of Buddhism belief. Various "states" exist in various areas in East Asia World in the Ancient Period and the Medieval Period. A boundary was conscious in relation to real political subject, diplomatic problem. As a result, various belief conscious of the world outside the boundary was performed. In particular, Shiten-no belief and Bishamon-ten god belief spread over each borderland area in Japan, Korea, and China in a simultaneous period. I made it clear that there is a deep relation between boundary consciousness and the Buddhism belief.

研究分野：日本古代史

キーワード：境界意識 仏教信仰 東アジア世界

1. 研究開始当初の背景

申請者はこれまで一貫して、前近代(主に古代・中世)の東アジア世界(主に中国、朝鮮半島、日本)の歴史的特質に関心を持ち、これらの地域に共通する具体的な要素の検討を通じて考察を試みてきた。具体的には、貨幣、文字といったものである。前近代東アジア世界の歴史を総体としてとらえるためには、こうした具体的な諸要素の検討が何よりも必要であると考え、本研究では、これまでの視点を継承しつつ、東アジアの普遍宗教である仏教に注目し、とくに仏教信仰が、境界地域において果たした役割を考察することにより、東アジア世界の特質を見通すことを試みることにした。

2. 研究の目的

本研究は、前近代における東アジア世界の歴史的特質をとらえるための前提として、7世紀から14世紀に至る時期における、東アジア諸地域の境界意識の変遷と、仏教をはじめとする信仰との関わりについて考察することを目的とする。古代・中世の東アジア世界では、さまざまな地域にさまざまな「国家」が興亡するが、そこでは、現実の政治課題や外交問題と深く関わって「境界」が意識され、境界の外の世界を意識したさまざまな信仰が行われていた。本研究では、日本、朝鮮半島、中国に残る境界世界の仏教信仰の痕跡を、文献史料や現存する寺院資料、考古資料、さらには出土文字資料などを博捜し、前近代における東アジア諸地域の境界意識の変遷とその歴史的背景、さらには各地域の比較研究などを試みる。

3. 研究の方法

本研究は、既存の文献史料を読み直すことはもちろんのこと、出土文字資料や考古資料、仏教美術資料などの多岐にわたる資料群を分析することで、研究目的の達成をめざす。

また、研究目的の性質上、東アジア各地域におけるフィールドワークが不可欠となる。

平成26年度は、境界地域における仏教信仰の実態を示す日中韓の史料を収集する一方、韓国の仏教信仰にかかわる遺物の調査や、境界地域との関わりの深い寺院資料の調査、踏査などを行う。

平成27年度は、国内では、岩手県、秋田県、鹿児島県など、境界世界における信仰をうかがわせる仏教美術資料や出土資料などを調査する一方、国外では、中国の唐宋期における四川地域の仏教遺跡のフィールド調査を行う。

平成28年度は、不足する史資料の収集を進め、本研究全体を総括する。

4. 研究成果

研究期間全体の成果としては、中国の四川省、韓国南部、日本の日本海側諸地域のフィールド調査、とりわけ9世紀の仏教信仰にかかわる遺跡、遺物、仏教美術等の調査を通じて、古代・中世東アジア諸地域の境界領域における仏教信仰と国土意識の醸成の問題について見通しを持つことができたことが大きな成果といえる。研究期間中も、その問題に直接かかわる論考や学術講演により、その成果を発信することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

三上喜孝「境界世界の仏法 - 四天王法の広まりと四天王寺の変容 - 」『仏教文明と世俗秩序』359-385頁、査読無、勉誠出版、2015年。

三上喜孝「古代地方社会における儀礼・饗宴と記録簡 - 「折敷」を転用した木簡をめぐる - 」『国史学』215、1-26頁、査読有、2015

年

三上喜孝「古代の境界意識・対敵意識と仏教信仰 - 九世紀の日本海側諸国における四天王法をめぐって - 」『出雲古代史研究』25、49 - 68 頁、査読無、2015 年。

三上喜孝「城山山城出土新羅木簡の性格 - 日本古代の城柵経営との比較から - 」『国立歴史民俗博物館研究報告』194、27 - 39 頁、査読有、2015 年

三上喜孝「文字がつなく古代東アジアの宗教と呪術」『古代東アジアと文字文化』103 - 124 頁、査読無、同成社、2016 年。

三上喜孝「日本出土古代木簡 - 九世紀医療施設に関する木簡 - 」、『木簡と文字』16、韓国木簡学会、pp.265-273、査読有、2016 年 6 月（査読有）

三上喜孝「中世の砂糖贈答に関する二、三の史料」、『村山民俗』30、村山民俗学会、pp.18-21、査読無、2016 年 6 月

三上喜孝「若狭の勧請板について - 2016 年 4 月の調査から - 」、『村山民俗』30、村山民俗学会、pp.102-117、査読無、2016 年

三上喜孝「峰吉川中村遺跡出土片仮名木簡について」『秋田県埋蔵文化財調査報告書第 505 集 峰吉川中村遺跡』1-4 頁、査読無、秋田県埋蔵文化財センター、2016 年

三上喜孝「第 4 節 平安時代の行方地方と南奥」『原町市史 通史編 古代・中世』南相馬市、査読無、pp.219-300、2017 年

〔学会発表〕(計 3 件)

三上喜孝「古代の境界意識・対敵意識と仏教

信仰～ 9 世紀の日本海側諸国における四天王法をめぐって～」(第 25 回出雲古代史研究会、2014 年 7 月 26 日)

三上喜孝「秋田城四天王寺と四天王法の広まり」九州歴史資料館平成 27 年度特別展「四王寺山の 1350 年 - 大野城から祈りの山へ - 」記念講演会「大宰府四天王寺と秋田城四天王寺」、2015 年 11 月 22 日(日)、於九州歴史資料館

三上喜孝「東アジアにおける法伝播の実態と出土文字資料」、成均館大学東アジア学院人文韓国研究所国際会議「東アジア出土資料研究の現在と未来」韓国・成均館大学、2017 年 2 月 14 日

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者
三上 喜孝 (MIKAMI Yoshitaka)
国立歴史民俗博物館・研究部・准教授
研究者番号：10331290

(2)研究分担者 ()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：

(4)研究協力者 ()